

## 学会記事

## I. 運営委員会報告

## 1. 企画委員会委員長の選任

2002年総会当日で任期切れとなる企画委員会委員長について、会長が選任した福嶋司氏を書面審議にて承認し、会長より委嘱した（任期は2002年10月18日より2005年3月31日まで）。

2. 2002年10月18日に筑波大学生物農林学系棟において開催。審議事項は以下のとおり。

- ① 植生学会誌掲載論文の著作権の所属について審議した。
- ② 学会賞制定小委員会による検討結果に基づいて植生学会表彰規定（案）について審議し、これを承認した。専門委員会として表彰委員会を設けることとした。
- ③ 編集委員会による植生学会誌投稿規定の改訂（案）について承認した。
- ④ 植生学会誌執筆要領の改訂（案）について承認した。

## II. 編集委員会報告

2002年10月18日に筑波大学生物農林学系棟において開催。

- ① 植生学会誌投稿規定の改訂（案）を作成した。
- ② 植生学会誌執筆要領の改訂（案）を作成した。

## III. 企画委員会報告

2002年10月18日に筑波大学生物農林学系棟において開催し、次のシンポジウム開催について審議した。

## IV. 2002年度総会報告

2002年10月18日に筑波大学生物農林学系棟において2002年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

## A. 報告事項

## 1. 運営委員会

- ① 植生学会表彰規定の制定（別掲1）。
  - ② 植生学会誌投稿規定の改訂（別掲2）。
2. 事務局（庶務関係）
- ① 2002年9月24日現在の会員数は正会員534名、団体会員11団体である。
  - ② 2002年3月30日に第49回日本生態学会の自由集会として群落談話会を開催した。福與聡氏（仙台市建設局）の解説により、仙台市青葉区の「水の森公園」でのエクスカージョンをおこなった。
3. 事務局（編集関係）
- ① 2001年10月から2002年9月までの間に植生学会誌18巻2号（原著論文6編、頁数71頁）と同19巻1号（原著論文5編、短報1編、資料1編、頁数67頁）を発行した。
  - ② 2002年3月に植生情報第6号（頁数70頁）を発行した。
  - ③ 2001年10月6日～2002年10月17日の期間の投稿論文数は21編。
  - ④ 植生学会誌執筆要領を改訂した（別掲3）。

## B. 承認事項

1. 2001年度収支決算（別掲4）
  2. 2002年度収支予算（別掲5）
  3. 植生学会誌掲載論文の著作権を植生学会に所属させること。
- C. その他
1. 第8回大会開催地となる立正大学の渡邊定元氏より、多数会員の参加が要請された。

## 別掲1. 植生学会表彰規定

平成14年10月18日制定

- 第1条 本規定は植生学会会則第3条2項に基づき本会会員を対象として行う表彰に関して定めたものである。
- 第2条 [目的] 植生学のさらなる発展のため、植生学の分野において著しい成果を挙げた者および研究、教育、本会の運営等に特に顕著な功績をなした者に対して賞を授与し、その功績を称えることを目的とする。
- 第3条 [表彰の種類] 表彰の種類は次のとおりとする。
- (1) 学会賞
  - (2) 奨励賞
  - (3) 功労賞
- 第4条 [表彰委員会] 前条の各表彰の候補者を選考するために、表彰委員会を設ける。表彰委員会は表彰委員長と若干名の表彰委員で構成する。表彰委員会は各賞の受賞候補者について審議し、それぞれの受賞候補者を選定する。
- 第5条 [受賞者の決定] 各賞の受賞者は運営委員会の議を経て決定する。
- 第6条 [学会賞] 本会に5年以上所属し、植生学に関して優れた業績によってとくに貴重な学術的貢献をなしたと認められる者に授与する。学会賞の選考対象となる業績には、植生学会誌掲載論文のほか、植生学に関するその他の論文・著書も含める。別に定める推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から選考する。
- 第7条 [奨励賞] 本会が発行した刊行物に優秀な論文を発表し、独創性と将来性をもって学術的貢献をなしたと認められる者に授与する。選考の対象者は当該年度の4月1日において35歳以下とし、過去に奨励賞の受賞経験のない者とする。別に定める推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から選考する。
- 第8条 [功労賞] 植生学にかかわる研究、調査、教育、啓発普及や本会の運営に関し、特に顕著な功績があったと認められる者に授与する。別に定める推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から選考する。
- 第9条 [推薦者の資格] 推薦者は本会会員に限る。自薦、他薦はこれを問わない。
- 第10条 [表彰の方法] 表彰は植生学会総会において学会長名で行う。
- 第11条 [賞の内容] 賞状および記念品とする。功労賞受賞者は次年度以降の会費を免除する。
- 第12条 [その他] その他表彰に必要な事項は表彰委員会の議を経て決定する。
- 附 則 本規定は平成14年10月20日より施行する。

## 別掲 2. 植生学会誌投稿規定改訂条項

旧	新
——<前 略>——	——<前 略>——
7. 原稿の送付, その他, 会誌に関する問い合わせは, 編集事務局とする。	7. 原稿の送付, その他, 会誌に関する問い合わせは, 編集事務局とする。
	8. <u>著作権は植生学会に帰属する。図表の転載は学会の許可を受けること。</u>
付則 1. この規定は 1998 年 10 月 3 日より適用する (1998 年 10 月 2 日改訂)。	付則 1. この規定は <u>2002 年 10 月 19 日</u> より適用する (2002 年 10 月 18 日改訂)。
付則 2. この規定の改訂は, 植生学会編集委員会の議を経て, 運営委員会の承認を得て行うものとする。	付則 2. この規定の改訂は, 植生学会編集委員会の議を経て, 運営委員会の承認を得て行うものとする。

## 別掲 3. 植生学会誌執筆要領改訂条項

旧	新
1. 原著論文, 総説の原稿は和文または欧文とし次の順序で記述する。	1. 原著論文, 総説の原稿は和文または欧文とし次の順序で記述する。
A. 和文の場合: 1 表題, 2 著者名, 3 所属, 4 英文表題, 5 ローマ字著者名, 6 英文所属, 7 英文アブストラクト, 8 Key words, アルファベット順に 5 語以内, 9 本文, 10 和文の要約, 11 文献。	A. 和文の場合: 1 表題, 2 著者名, 3 所属, 4 英文表題, 5 ローマ字著者名, 6 英文所属, <u>7 欄外見出し (35 字以内)</u> , 8 英文アブストラクト, <u>9 Key words (アルファベット順に 5 語以内)</u> , <u>10 本文</u> , <u>11 摘要</u> , <u>12 文献</u> 。
B. 欧文の場合: 1 表題, 2 著者名, 3 所属, 4 アブストラクト, 5 Key words, アルファベット順に 5 語以内, 6 本文, 7 英文の要約 (本文が英文の場合はなくともよい), 8 文献, 9 和文の要約 (表題, 著者名, 所属, 本文要約)。	B. 欧文の場合: 1 表題, 2 著者名, 3 所属, <u>4 欄外見出し (約 12 語以内)</u> , <u>5 アブストラクト</u> , <u>6 Key words (アルファベット順に 5 語以内)</u> , <u>7 本文</u> , <u>8 英文の要約 (本文が英文の場合はなくともよい)</u> , <u>9 文献</u> , <u>10 和文の要約 (表題, 著者名, 所属, 本文要約)</u> 。
2. 短報および資料は, 和文の場合, 英文アブストラクト, Key words, 和文の要約, 欧文の場合, アブストラクト, Key words, 英文の要約, 和文の要約はなくともよい。	2. 短報および資料については, 和文の場合, 英文アブストラクト, Key words, <u>摘要はなくともよい</u> 。欧文の場合, アブストラクト, Key words, 英文の要約, 和文の要約はなくともよい。
3. 文献は本文中に引用したものすべてを記すこととし, 記述は下記の例および最新号の会誌の形式に準ずる。	3. 文献は本文中に引用したものすべてを著者のアルファベット順に記すこととし, 記述は下記の例および最新号の会誌の形式に準ずる。
吉井義次 1949. 飛鳥の植物群落. 生態学研究, 12: 124-133.	<u>堀川芳雄 1948. 水河期前の植物群落と見なすべきエビゴケ. 生態学研究, 11: 27-31.</u>
鈴木由告 1975. 千葉県におけるカタクリの分布—その生態的位置づけ—. 新版千葉県植物誌 (千葉県生物学会編), pp. 188-193. 井上書店, 東京.	<u>Keeley, J.E. 1987. Role of fire in seed germination of woody taxa in California Chaparral. Ecology, 68: 434-443.</u>
鈴木時夫 1952. 東亜の森林植生. 古今書院, 東京.	<u>郡場寛 1972. 植物生理生態 (第 14 版). 養賢堂, 東京.</u>
ホイッター, R.H. 1975. (宝月欣二訳, 1979). 生態学概説. 培風館, 東京.	<u>Krebs, C.J. 1978. Ecology: The experimental analysis of distribution and abundance (2nd ed.). Harper &amp; Row, Publishers, New York.</u>
Bray, J.R. & Curtis, J.T. 1957. An ordination of the upland forest communities of southern Wisconsin. Ecological Monographs, 27: 325-349.	<u>沼田真 1967. 植物的環境の解析と評価. 「自然: 生態学的研究」(森下正明・吉良竜夫編), 163-187. 中央公論社, 東京.</u>
Sundriyal, R.C. 1994. Vegetation dynamics and animal behaviour in an alpine pasture of the Garhwal Himal. In: High Altitudes of the Himalaya (Biogeography, Ecology & Conservation) (eds. Y.P.S. Pangtey & R.S. Rawal), pp. 179-192. B.L. Consul for Gyanodaya Prakashan, Nainital.	<u>Parker, V.T., Simpson, R.L. &amp; Leck, M.A. 1989. Pattern and process in the dynamics of seed banks. In: Ecology of soil seed banks (eds. Leck, M.A., Parker, V.T. &amp; Simpson, R.L.), 367-384. Academic Press, San Diego.</u>
Greig-Smith, P. 1964. Quantitative Plant Ecology, 2nd. ed. Butterworths, London.	<u>ピールー, E.C. 1969. 数理生態学 (南雲仁一監訳, 合田周平・藤村貞夫訳, 1974). 産業図書, 東京.</u>

Ellenberg, H. 1986. (trans. G.K. Strutt, 1988). *Vegetation Ecology of Central Europe*, 4th ed. Cambridge University Press, Cambridge.

4. 和文原稿はA4版400字詰原稿用紙に横書きし、ワードプロセッサによるときは、A4版厚手の白紙に34文字・30行で打ち出し、1ページとする。
5. 欧文原稿はA4版厚手の白紙にダブルスペースでタイプし、上下は各3cm、左右は各2.5cm程度をあげ、約65文字、25行を1ページとする。
6. 本文中の動・植物名の和名はカタカナ、学名はイタリック体の指定（下線を一本引く）とする。
7. 原著論文は刷り上がり12ページまで、総説は16ページまで、短報および資料は4ページまでは無料とし、超過分は著者の負担で掲載することができる。超過ページ印刷代は1ページにつき9,000円とする。
8. 図表の大きさは原則として自由とするが、投稿者の責任において作成する。ただし、写真はプリントした陽画を用いる。図表、写真等の挿入希望位置を本文原稿の余白に朱書きで指定すること。なお、カラー印刷は著者の負担とする。
9. 図の説明は別紙にまとめて書き、その紙には本文に続くページ数を打っておくこと。
10. 表の説明は表の上部に書くものとする。
11. 1ページにおさまらない表は、投稿者の負担で折り込みとすることができる。
12. 原図は原稿受理後に、編集委員会の指示に従って送付すること。その際に本文、表、図表の説明等を入力したフロッピー（テキストファイル）を原則として添えること。
13. 別刷は1論文につき50部を無料で受け取ることができる。これを超える別刷りは実費を著者が負担して作成する。別刷りの必要部数（無料分を含む）を50部単位で投稿原稿送付状に明記する。

付則1. この要領は2000年10月7日以降に投稿された原稿に適用する（2000年10月6日改訂）。

付則2. この要領の改訂は、植生学会編集委員会の議を経て、運営委員会の承認を得て行うものとする。

Remmert, H. 1980. *Ecology: A textbook* (trans. Biederman-Thorson, M.A., 1980). Springer-Verlag, Berlin.

4. 和文原稿はA4版400字詰原稿用紙に横書きし、ワードプロセッサによるときは、A4版厚手の白紙に34文字・30行で打ち出し、1ページとする。なお、下部余白中央にページ番号を振ること。
5. 欧文原稿はA4版厚手の白紙にダブルスペースでタイプし、上下は各3cm、左右は各2.5cm程度をあげ、約65文字、25行を1ページとする。なお、下部余白中央にページ番号を振ること。
6. 本文中の見出しおよび小見出しはボールドとする。
7. 本文中の動・植物名の和名はカタカナ、学名（属名・種小名など）はイタリック体とする。
8. 上記のほか、最終原稿におけるボールド、イタリック、上つき、下つきなどの指定はすべて朱書き（手書き）でおこなうこと。
9. 原著論文は刷り上がり12ページまで、総説は16ページまで、短報および資料は4ページまでは無料とし、超過分は著者の負担で掲載することができる。超過ページ印刷代は1ページにつき9000円とする。
10. 図、表、写真等の大きさは原則として自由とするが、投稿者の責任において作成し、挿入希望位置を本文原稿の余白に朱書きで指定すること。
11. 図、表、写真等のカラー印刷は所定の料金とし、著者の負担とする。
12. 図の説明は別紙にまとめて書き、その紙には本文に続くページ数を打っておくこと。
13. 表の説明は表の上部に書くものとする。
14. 1ページにおさまらない表は、著者の負担で折り込みとすることができる。
15. 原図、写真等は原稿受理後に、編集委員会の指示に従って送付すること。その際に本文、表、図の説明等を入力したフロッピーディスク、CD、MO等（アプリケーションの形式だけでなくテキスト形式のものも入れること）を添えること。コンピューターで作成した図やデジタル化された写真がある場合は、これも入れること。
16. 写真は原則的にプリントした陽画とするが、ポジのスライドフィルムやデジタル化されたものがある場合は、最終原稿提出時にそれも添付すること。
17. 別刷は1論文につき50部を無料で受け取ることができる。これを超える別刷りは実費を著者が負担して作成する。別刷りの必要部数（無料分を含む）を50部単位で投稿原稿送付状に明記する。

付則1. この要領は2002年10月19日以降に投稿された原稿に適用する（2002年10月18日改訂）。

付則2. この要領の改訂は、植生学会編集委員会の議を経て、運営委員会の承認を得て行うものとする。

## 別掲4. 植生学会 2001 年度収支決算

(単位: 円)

収入の部		予 算	決 算	差 異	備 考
前期繰り越し		2,935,038	2,935,038	0	
会費		3,020,000	2,845,000	175,000	
雑収入	バックナンバーなど	300,000	231,000	69,000	
	利息	500	567	-67	
計		6,255,538	6,011,605	243,933	
支出の部					
本誌刊行費	850,000 円×2 回	1,700,000	1,218,210	481,790	
情報誌刊行費	300,000 円×1 回	300,000*	273,344	26,656	*2000 年度分
送料		250,000	36,774	213,226	
学会事務局経費		400,000	402,159	-2,159	
編集事務局経費		150,000	84,873	65,127	
情報誌編集費		10,000	23,952	-13,952	
企画委員会経費		100,000	0	100,000	
大会補助費		100,000*	100,000	0	*第 6 回大会分
小委員会経費		200,000	25,960	174,040	
予備費		3,045,538	0	3,045,538	
計		6,255,538	2,165,272	4,090,266	
収支差額(繰り越し)		0	3,846,333	-3,846,333	

## 別掲5. 植生学会 2002 年度収支予算

(単位: 円)

収入の部		2002 年度	2001 年度	差 異	備 考
前期繰り越し		3,846,333	2,935,038	911,295	
会費		3,244,000	3,020,000	224,000	
雑収入	バックナンバーなど	300,000	300,000	0	
	利息	500	500	0	
計		7,390,833	6,255,538	1,135,295	
支出の部					
本誌刊行費	850,000 円×2 回	1,700,000	1,700,000	0	
情報誌刊行費	300,000 円×1 回	300,000*	300,000	0	*2001 年度分
送料		250,000	250,000	0	
学会事務局経費		400,000	400,000	0	
編集事務局経費		150,000	150,000	0	
情報誌編集費		40,000	10,000	30,000	
企画委員会経費		100,000	100,000	0	
大会補助費		250,000*	100,000	150,000	*第 7 回大会分
小委員会経費		0	200,000	-200,000	
予備費		4,200,833	3,045,538	1,155,295	
計		7,390,833	6,255,538	1,135,295	

## V. 植生学会第7回大会報告

植生学会第7回大会が、2002年10月18日から20日にかけて筑波大学において開催された(下記日程)。一般講演では口頭42題、ポスター16題の発表が行われた。参加者は予約申込者148名、当日参加者49名の計197名であった。

10月18日：企画委員会、編集委員会、運営委員会

10月19日：一般講演(口頭発表・ポスター発表)、総会、懇親会

10月20日：エクスカージョン(筑波山コース、小貝川・菅生沼コース)

一般講演は以下のとおりであった。

<口頭発表>

- A01 島田和則(森林総研)・勝木俊雄(森林総研・多摩森林科学園)、都市近郊地の気象害跡地における木本種の侵入初期過程
- A02 島野光司・高橋耕一・藤田淳一(信州大)、山火事後のアカマツ林における植生回復
- A03 金子泰子・吉田充志・渡邊定元(立正大)、富士山無植被ヒノキ林風害跡地に再生したフロラの特徴
- A04 前中智夏・吉川正人・福嶋司(東京農工大)、群馬県、玉原高原における異なる伐採圧をうけたブナ林の10年間の動態
- A05 根本真理・星野義延(東京農工大)、里山地域における植物の種多様性と群落多様性の関係
- A06 村上雄秀・矢ヶ崎朋樹(国際生態学センター)、孤立木調査に基づく市街地の潜在自然植生の推定の試み
- A07 小林誠・渡邊定元(立正大)、分布拡大する北限界ツバメの沢ブナ林の林分構造
- A08 中尾茂樹・迫田昌宏(中外テクノス(株)関西支社)・原田一二三(兵庫県企業庁)・三宅慎也(神戸市立森林植物園)、兵庫県南西部の森林植生と立地環境
- A09 森定伸((株)ウエスコ)・山崎通敬・能美洋介・波田善夫(岡山理科大)、香川県豊島の植生(地質・地形と植生の関わりについて)
- A10 寺下史恵・石渡一江・藤本哲久・能美洋介・波田善夫(岡山理科大)、岡山県南部の森林植生—地質・土壌と植生—
- A11 長島康雄(仙台市天文台)・平吹喜彦・長谷川巧(宮城教育大)、老齢防潮林における鳥散布型常緑樹種稚樹の定着様式
- A12 黒田有寿茂・甲斐 崇・向井誠二・豊原源太郎(広島大)、宮島(弥山原始林)におけるモミ・ツガ林
- A13 渡邊定元・斎藤範子(立正大)、限界樹高軸でみたブナのニッチ・ハビタット・エコトープ—多良山系タワラギ山の分布西限のブナ林における事例
- A14 斎藤範子・渡邊定元(立正大)・原島 高(森林環境研究所)、多良山系分布西限ブナ林における斜面方位による主要構成種の順位係数—一つの山岳において群落構成種の種間関係はどの程度変化するか
- A15 大野啓一(横浜国大)・宋鍾碩(安東大)、日本と韓国に分布するコナラ林の植物社会学的研究
- A16 豊原源太郎(広島大)、アカマツ-ウバメガシ群集について
- A17 土畑正和・菊池多賀夫(横浜国大)、ウバメガシの更新メカニズムと生存戦略
- A18 大野啓一(千葉県立中央博物館)、アケボノシユスランのフェノロジーと分布
- A19 佐野哲也(東大)・持田幸良(横浜国大)、ミズナラ二次林構成種の空間パターンとシュートフェノロジーとの関係
- A20 林一六(筑波大)、冷温帯落葉広葉樹の開葉と落葉
- A21 前迫ゆり(奈良佐保短大)・松村みちる・和田恵次(奈良女子大)、ニホンジカの樹皮剥ぎ行動からみた樹木選択
- B01 池田浩明・原田直國・西村誠一(農環研)・伊藤一幸(東北農研センター)、休耕田植生による水田懸濁物質の移行・拡散防止機能
- B02 篠島美雪・星野義延(東京農工大)、伊豆諸島及びその周辺域における有刺植物の刺の地理的変異
- B03 木村健太郎・上條隆志(筑波大)・谷尚樹・津村義彦(森林総研)、葉緑体DNA塩基配列分析による日本産クリガシ属の遺伝構成と従来の分類との関係
- B04 永松大・小南陽亮・佐藤保・齊藤哲(森林総研・九州)・手塚賢至(ヤクタネゴヨウ調査隊)・金谷整一(森林総研)、屋久島尾根斜面におけるヤクタネゴヨウと混交樹種との関係
- B05 加藤拓・上條隆志・田村憲司・東照雄(筑波大)、三宅島における一次遷移に伴うスコリア由来土壌の養分蓄積量変化
- B06 皇瀬頼子(自然環境研究センター)・長岡綾子(横浜植生研究会)、多摩川中流域における河川敷植生の秋から春にかけての面的変化
- B07 三宅尚・広瀬貴大・桑原淳・石川慎吾(高知大)、高知県仁淀川の砂礫堆における10年間の植生動態
- B08 吉川正人・平中晴朗(東京農工大)、関東平野北部の扇状地河川沿いに成立する落葉広葉樹林の種組成
- B09 根岸知子・中村太士(北大)、釧路湿原におけるハンノキの成長量と物理環境の関係について
- B10 橘ヒサ子(北教大・旭川)・佐藤雅俊(帯畜大)・松原光利(宗谷中学校)・周進(中国科学院武漢植物研究所)、北海道北部サロベツ湿原におけるササの分布について
- B11 迫田昌宏・原田昭・中尾茂樹(中外テクノス(株)関西支社)・谷口心也(学校法人立命館)、古琵琶湖層群上に成立する湿原の保全-立命館大学自然緑地における湿原保全の取り組み-
- B12 渡邊幹男・巴貴子・神谷奈津美・二橋由美(愛知教育大)・榎田敏宏(愛教大附属高校)・浅井常典(豊明市教育委員会)・芹沢俊介(愛知教育大)、人為的に遺伝的浮動を起こしてしまった集団の復元—豊明市に生息する絶滅危惧植物ナガバノイシモチソウの遺伝的多様性—
- B13 鈴木伸一(国際生態学センター)、利根川源流域周辺の雪田植生—特にイワイチョウ群団について—
- B14 富士田裕子(北大・植物園)・井上京(北大)、札幌市篠路湿地の植生・水文環境の現状と保全について
- B15 木暮朋子・福嶋司・吉川正人・加藤誠・星野義延(東京農工大)・鈴木伸一(国際生態学センター)、群馬県玉原湿原における植生分布と地下水状況の関係について
- B16 櫻村利道(福島大)、西吾妻馬場谷地湿原の歩道整備に伴

う水理の変化について

- B17 杉村康司・沖津進（千葉大）．筑波山における樹幹着生蕨苔類と林床蘚苔類の種組成と分布特性
- B18 沖津進（千葉大）・澤口晋一（新潟国際情報大）・長谷川裕彦（明治大）・神田啓史（国立極地研究所）．カナダ北極エルズミア島における氷河後退モレーン上の植生発達
- B19 中西正（豊橋市立豊橋高等学校）．海浜植生の人為攪乱からの回復
- B20 桑原佳子（（社）大分野生生物研究センター）．久住高原における草原の保全・復元の試み（第3報）
- B21 野峯玲児・井上牧子・今西朋子・三原加帆里（神戸女学院大）．ヤマジソ群集について —東播磨南部の禿山地帯の新草本群集—
- <ポスター発表>
- P01 田村憲司（筑波大）・小幡和男（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）・飯田勝明（茨城県立藤代高校）．屋上緑化住宅の植生 1．緑化屋上の構造と管理について
- P02 小幡和男（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）・田村憲司（筑波大）・飯田勝明（茨城県立藤代高校）．屋上緑化住宅の植生 2．緑化屋上の植生遷移について
- P03 磯谷達宏・荒井義幸（国土館大）．三浦半島森戸川流域におけるネコノメソウ属2種の分布と微地形条件
- P04 矢内晃子・許琴蘭・大野啓一（横浜国大）．景観生態学による地域緑地の環境評価
- P05 広瀬彩奈（筑波大）・建元喜寿・黒岩健一（筑波大附属坂戸高校）・中村徹（筑波大）．都市近郊の学校園が果たす里山の役割
- P06 深澤晋作（筑波大）・阿部真・田内裕之（森林総研・北海道）・中村徹（筑波大）．択伐林の植生構造を決定する要因の解析
- P07 山下寿之（富山県中央植物園）．富山県におけるコナラ二次林の種類組成と遷移
- P08 江島淳・中村徹・上條隆志（筑波大）．筑波大学井川演習林における二次林の植生学的研究
- P09 伊藤哲（宮崎大）．九州のモミ・ツガ林-ブナ林移行帯における植生のモザイク構造
- P10 持田誠・富士田裕子（北大・植物園）・秦寛（北大・静内研究牧場）．北海道日高地方のミズナラ林及びヤチダモ林における林間放牧が種組成と種数に及ぼす影響
- P11 高田裕・上條隆志（筑波大）．伊豆諸島におけるスダジイ自然林の種多様性パターン
- P12 山本圭太（岡山理科大）・妹尾三嶺・高橋和成（岡山一宮高校）・波田善夫（岡山理科大）．草刈頻度の異なる旭川高水敷の植生比較
- P13 戸来吏絵・上條隆志・中村徹（筑波大）．つくば市北東部における休耕田の植生
- P14 川田清和・中村徹（筑波大）．内蒙古における農耕地由来の土壌が草原植生に及ぼす影響
- P15 大黒俊哉・白戸康人・今川俊明・谷山一郎・藤原英司（農環研）・常学礼（烟台大学）・張銅会・趙哈林（中国科学院）．中国北東部ホルチン草地における植生分布と砂質土壌の関係
- P16 横山政史・大野啓一（横浜国大）．干潟の塩生植生とその成立要因

## VI. 第2回植生学会シンポジウム報告

2002年5月25日に、兵庫県立人と自然の博物館および（社）日本環境アセスメント協会との共催でシンポジウムを開催した。会場は兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市）、参加者は146名（植生学会会員96名）であった。プログラムは以下のとおり（詳細は「シンポジウムの記録」として植生情報7号に掲載予定）。

テーマ：植生データのデータベース化とその有効利用

開会挨拶：菊池多賀夫（植生学会会長）

基調講演：

笹岡達男（環境省生物多様性センター）自然環境保全基礎調査における植生データ整備の経緯と現状

武田義明（神戸大学）兵庫県における植生データベースの構築とその活用

田中信行（森林総合研究所）植生データベースを用いた地球温暖化の影響予測研究

日置佳之（鳥取大学）植生調査データを用いた動物の生息環境評価

三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館）博物館の自然環境情報を活用すると何が出来るのか？

座長 奥田重俊（横浜国大）

パネルディスカッション：

笹岡達男、武田義明、田中信行、日置佳之、三橋弘宗、波田善夫（岡山理科大）、永野正弘（環境設計（株））、中西收（（株）関西総合環境センター）

座長 星野義延（東京農工大）

閉会挨拶：小澤三宜（（社）日本環境アセスメント協会関西支部長）

## VII. 学術会議第19期会員の推薦に関わる学術研究団体登録について

学術会議会員推薦管理会より9月13日付けで植生学会が学術研究団体に登録された旨の通知があった。

## VIII. 科学研究費助金の審査委員候補者推薦について

学術会議より科学研究費補助金の審査委員候補推薦の依頼があり、植生学会からは細目「生態・環境生物学」に2名、細目「環境影響評価・環境政策」に2名の計4名を推薦した。

## IX. 企画委員会委員の委嘱について

会長より以下の8氏に企画委員会委員を委嘱した（任期は2002年10月18日より2005年3月31日まで）。

浅見佳世、上杉章雄、大野啓一（千葉中央博）、神崎護、武田義明、西尾孝佳、野峯玲児、村上雄秀。

